

道

2019年9月1日
(第48号)

老いの空白

鷺田清一

岩波書店



小田川

ひとつの本をこんなに何度も読み返したことがあっただろうか。鷺田清一著『老いの空白』。初版は二〇〇三年で、この年に始まった「ケア」を考える会で最初に読んだ。西川勝さんが開く「ケア塾たまたまてばこ」で読んだ覚えもある。さらに、二〇一五年に文庫版が出たのを機に一年間かけて京都で読み合った。そして今回、岡山の「ケア」を考える会で読んできて、それが今月で読了となる。

▼難解な本だが、よく分からないなりに、なにか、凄く大事なことを言っていることは伝わってくる。僕の高齢者「ケア」を支えているのは鷺田「ケア」論なのである。

▼今、「老い」のかたち「老い」の文化「見えないうい」。「老い」は空白のままである。「あらたに「老い」の文化をつくりあげる」ことが人類の課題である。老いることは衰えることでもある。今迄できていたことができなくなる。できない人は生きている値打ちがないとする「文化」が世界を覆う。「有用性とか生産性とか効率性」が支配する社会。そこでは「老い」ははじめからおそましいものとなる。「《成長》の論理」の「外に出る」ことだ。

「へ弱さ」に従う自由。「老人が老人としてそのあり方に十分な意味を見いだせる社会」を考えねばならない。何か「できる」からではなく、「ただいる」ということだけで「ひとの存在には意味があるのではないか」。鷺田清一さんは、そう問いかける。

〒710-1301

岡山県倉敷市真備町箭田 5188

TEL. 090-5366-1497

MAIL michi-care@outlook.jp

H.P. <https://michi-care.jimdo.com/>

林道也

※〈道〉第47号を8月15日に発行しました。
一部の方に SNS 発信しただけで、お送りできていません。
ホームページでお読みいただければ幸いです。

